

平成30年度「市長と語り合う会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
7月2日（月）	道川地区振興センター	19:00～20:00	9	4	13

○市側出席者

市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

○開会（秘書課長）

- ・会の趣旨説明
- ・出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

本年度は施政方針の基本方針として「連携の進化（深化）」ということ掲げている。昨年度は「地元民間企業との連携」を重要な柱としていたが、本年度は更にそれを色々な方面に広げたり、深めていくという意味である。

・官民連携

官民連携のもっとも典型的な取組として「自転車によるまちづくり」がある。本市においてはこれまでに、INAKAライドやチャレンジャーズステージという自転車競技大会が行われてきたほか、今年度は全日本自転車競技選手権大会という最高峰の大会が開催された。これも民間の主体的な取組を行政が支援する形で進められてきたもの。現在、2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ誘致を市が中心となって進めているが、5月末にアイルランドを訪問し、今後の合宿誘致やオリンピック後の相互交流など幾つかの話の前進が見られたところである。

・政策間連携

政策間連携の代表的なものは「歴史を活かしたまちづくり」である。昨年開催された「石見の戦国武将」展はグラントワの企画展であるが、本市も共同の主催者として関わっている。本市には様々な歴史的資産があるので、今後も東京大学史料編纂所や島根県と連携しこれらの研究や掘り起こしに取組んでいきたい。

・都市間連携

本市と友好関係にある都市といえば大阪府の高槻市や豊中市、神奈川県川崎市などがある。

先日、姉妹都市高槻市を震源とする大きな地震が発生した。市としてはいち早く見舞金の贈呈と被害状況等確認のため2名の職員を派遣した。現在、同市から被災家屋の判定にかかる職員派遣の要請がきており、税務課固定資産税係の職員を順次派遣するよう調整をしているところである。

また、川崎市とはこれまでの文化・スポーツ交流に加え、経済間の交流も行っている。昨年度は川崎市に本社のある企業が開発した特許のうち、休眠特許と呼ばれる未活用の特許の活用について益田市内の中小企業へのマッチングを行っており、今後もこれを継続していきたい。

・大学との連携

昨年度は東京都の大正大学と東洋大学との交流を進めた。特に、大正大学とは連携協定を結び、秋口には地域創生学部の1年生7名が益田市内に40日間滞在され、地域資源の調査や魅力の再発見に取組んでもらったほか、地元住民との交流も図られた。今後、市内の高校生が進学するにあたっては、東京の大学で地域の活性化について学んでもらって、将来益田に帰って、そこで学んだことを活かすような「循環」を形づくっていきたいと考えている。

・広域連携

県や近隣市町との連携も重要で、特にこの広域連携を活かした取組が萩・石見空港の利用促進である。結果、この3月末からも東京線の2往復運航がさらに2年間継続されている。この空港は、当圏域と首都圏を結ぶ貴重な空の玄関口であるので、今後も力を合わせて利用促進、空港の利活用に努めていきたい。

・**庁内連携**

市役所内部の連携も重要であると考えている。特に、匹見、美都総合支所はこの春に機構改革を行い、本庁部局とダイレクトに結びつける形にした。今後は、両地区の個別の課題も庁内全体で考え、取組む体制にしている。こうした「庁内連携」もしっかりと進めていきたい。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 益田市への I ターン者について
- ② 空港の利用助成について
- ③ ひとまるビジョンの放送内容について
- ④ 小中一貫教育、義務教育学校について
- ⑤ バス運賃の軽減について
- ⑥ グリーンライン90について
- ⑦ 国道191号の改良について
- ⑧ 旧道川小学校校舎内の漏水について

○ 閉 会 （秘書課長）

平成30年度「市長と語り合う会」

〔会場 道川地区振興センター〕 開催日時：平成30年7月2日（月）19:00～20:00

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 益田市へのIターン者について 市内へのIターン者は何人おられるか。また、Iターン者と交流する中で参考となるような意見はあったか。</p>	<p>①Uターン者を含め年間230名程度の実績がある。また、現在行政が呼びかけて行うUIターン者大交流会のほか、UIターン者同士の会合が定期的に行われていると聞いているが、その中でどの様な話しがされているかは承知してない。ただ、今後もこうした交流が続くことを行政として後押ししていきたい。</p>
<p>② 空港の利用助成について 飛行機を利用する際、浜田市など他市町村には助成制度があるが、益田市内の人は複数で利用しない限り助成適用されない。同じ市内でも道川地区など交通の便が悪い地域は、こうした距離的な部分を考慮してもらえないか。</p>	<p>②浜田市や江津市では市独自の助成制度を設けているが、本市は利用拡大促進協議会を通して支援を行っている。これは、利用拡大促進協議会全体の8割以上の負担金を立地自治体である益田市が拠出していることによる。協議会としても毎年様々な手を打って効果的な支援を考えているが、いただいたご意見を新しい支援の方策に活かしていきたい。</p>
<p>③ ひとまるビジョンの放送内容について データ放送について、同じ内容を映すばかりでなく、何か工夫はできないか。 ひとまる情報局について、同じ番組が繰り返し放送されており、魅力がないように感じる。市から指導することはできないか。</p>	<p>③地域の様々な行事に出かけて取材しておられるが、小さい放送局であるので、番組制作においては難しい部分があると思う。今後少しでも番組の数が増えるよう市としても協力していきたい。 なお、ひとまるビジョンについては、運営会社である萩ケーブルネットワークの内部でごたごたした状況にあるよう報道があった。同社に対しては、市内での放送事業、インターネット通信事業をしっかりと継続してもらおうようお願いしている点、付け加えさせていただく。</p>
<p>④ 小中一貫教育、義務教育学校について 道川小学校が閉校になり、将来的には匹見中学校が他校と統合されることを懸念している。市や市教育委員会からは過去に、匹見地域での小中一貫教育や小中学校を統合した義務教育学校の導入の話があり、今年度からPTAなどでこれにかかる勉強会を実施している。その中で市教育委員会の動きが鈍いという情報が入っているが、あらためて考えを聞かせてほしい。</p>	<p>④学校再編計画の現計画期間が本年度で終了することから、来年度以降の計画策定を進めている。その中において、基本的に匹見地域については、地域性や距離的な問題を考慮し匹見の中に小中学校を置くことになると考えている。 その上で、本年度の施政方針や教育行政の取組方針には、小中一貫教育を進めていくことを書いており、匹見地域のみならず、市全体でこれをしてしっかりと進めていきたい。義務教育学校については、まずは小中一貫教育を進める中で、将来的な一つの選択肢として研究していきたいと考えている。</p>
<p>⑤ バス運賃の軽減について 道川地区は市中心部から離れており、安価でバス通学や通院ができる方法を考えてほしいと思っている。年1回、500円で1日乗り放題となる「石見交通の日」には、日頃1、2人しか乗ってないバスが満員となっており、運賃が安ければこの地域でも利用者があるということが分っている。 市が石見交通に対して補助金を出しているのは</p>	<p>⑤石見交通への補助は、赤字路線に対してその発生した赤字分を市が補填し、市の補填部分に対して県から交付金をいただくというもの。その補填の額も年々増えており、市としても大きな課題と捉えている。毎年定期的に事業者や利用者との懇談の場を設けているが有効的な策は見いだせてない状況にあり、今後とも努力を続けていきたい。</p>

聞いているが、それは使い方まで限定するものなのか。その補助金を道川のように距離的なハンデがある地域の運賃補助に活用することは可能か。

⑥ グリーンライン90について
グリーンライン90の今後の見通しはどうか。

⑦ 国道191号の改良について
国道191号美都～道川間に在る急カーブ、急勾配の坂道を何とか整備してほしいと以前から思っていた。道路が整備されれば広島から益田への人の流れもでき、まちの活性化に繋がるのではないかと思うがどうか。

⑧ 旧道川小学校校舎内の漏水について
先日、旧道川小学校校舎内で漏水が判明し、現在水が使えない状態となっている。学校の跡地利用の話を進める状況にあるが、今後運動会など地域の行事で水を使用することもあり、早急な対応をお願いしたい。

⑥毎年少しずつ工事は進んでいるが未だ全線開通には至ってない。早期整備に向け、引き続き県に強く要望していきたい。

⑦国道191号は、下関～益田の中心部が国の管理区間、益田～広島までは島根、広島県の管理区間となっている。従って、ご指摘の区間の改良は島根県に要望しなければならないところであるが、県全体の土木予算も限られる中、我々要望する側も一定程度の順位付けを行い、区間を絞って対処する必要がある。美都～道川間についてもこうした段階を経て対応していきたい。

⑧持ち帰り、関係課に伝えたい。